

第205回 「元気に百歳」クラブ「道草」(第14回通信句会)開催

今年も世情は、コロナウイルスのオミクロン株旋風で幕が開きました。どこか心の端っこにひっかかる真っ黒で、うねうねとした物体が、隙を見せれば、いつでも飛び掛かってやろうと、狙っているように思います。用心しましょう。

令和4年1月、本年最初の通信句会です。参加したメンバーは、芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、手嶋錦流さん、中島憧岳さん、原晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然の16名でした。

今回も季題は、晶如さんと和感さんが纏めて下さって、兼題1「若菜摘」兼題2「初雀」兼題3「当季雑詠の自由題」として提示して下さいました。投句から選句結果の纏めまでは、今回は清助さんが纏めて下さいました。皆さま有難うございます。全員、期日までに句を詠み、選句した結果は下述の通りです。それでは一句、一句、吟味しましょう。

兼題1. 「若菜摘」

- | | | |
|-------------------|----|-------|
| ◎『せせらぎの音透けゆくや若菜摘』 | 荻女 | 天2☆10 |
| ◎『若菜摘む人ら時折空仰ぐ』 | 月草 | 天1 |

兼題2. 「初雀」

- | | | |
|-------------------|-----|------|
| ◎『チョンと来て首かしげたり初雀』 | 歌多音 | 天1☆8 |
| ◎『初雀鳴き声さえも畏まり』 | 柴楽 | 天1 |

当季雑詠の自由題 (=冬=)

- | | | |
|-------------------|-----|------|
| ◎『福袋中身の福を少し見せ』 | 明峰 | 天2 |
| ◎『三島にて五分の停車雪の富士』 | 荻女 | 天1☆8 |
| ◎『初雪やビルも墨絵の中にあり』 | 一光 | 天1 |
| ◎『我よりも背の高き子にお年玉』 | 多佳 | 天1 |
| ◎『振り向けばビルは影絵の初茜』 | 傘吉 | 天1 |
| ◎『振袖に襷凛々しく弓始め』 | 清助 | 天1 |
| ◎『冬空や木々悉く黙考す』 | 月草 | 天1 |
| ◎『新年やほころぶ笑顔あればよし』 | 白然 | 天1 |
| ◎『万両や陽ざしを受けて輝けり』 | 蒼樹 | 天1 |
| ◎『三密をしばし忘れて初詣』 | 歌多音 | 天1 |

兼題1では、荻女さんの句「せせらぎの音透けゆくや若菜摘」が、天賞二つと最多得票賞(☆印)を獲得しました。透けるように清らかな流れのせせらぎの向こう川の土手での若菜摘は、新春にふさわしい光景が見えるようです。選者の評が集まりました。次に月草さんの句「若菜摘む人ら時折空仰ぐ」が、天賞一つを獲得しました。天賞推挙のコメントに、老いての若菜摘みは、足腰に負担がかかり、長い時間は屈んではいられず、しばらくすれば、すぐに天を仰ぐとありましたが、まさにそうでありましょう。

兼題2では、歌多音さんの句「チョンと来て首かしげたり初雀」が、天賞一つと最多得票賞(☆印)を獲得しました。庭に降りて来る雀の様子を見事に捉えられています。上五、中七の表現が、選者の共感を得たと思われまふ。次に柴楽さんの句「初雀鳴き声さえも畏まり」が、天賞一つを獲得しました。元旦の朝から庭に来て、チュンチュンとなく雀の音が、畏まっているように聞こえるとは・・・、面白い捉え方が、選者の共感をピタリとキャッチしました。

兼題3では、天賞が十句も揃いました。ということは、優秀句が揃ったということか、句座の感度というか、仲間の価値観というか、思いが違うということでしょうか。意見が分かれました。

まずは明峰さんの句「福袋中身の福を少し見せ」が、天賞二つを獲得しました。初売りのデパートやスーパーマーケット、銀座の有名文房具店などの福袋は、毎年楽しみの一つ、明峰さんの着眼点は、流石にお見事です。商魂と言いますか、お店の福袋の中身をちょっと見せるというところを逃しませんでした。次に荻女さんの句「三島にて五分の停車雪の富士」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。荻女さんも出会った絶好のシーンは見逃しません。しかもこの句は、上五から「何だろう、何だろう」と、読者を句の奥に誘導する仕掛けをし、下五の「雪の富士」で、ピシャリと句を決め、読者を納得させました。お見事です。

次に一光さんの句「初雪やビルも墨絵の中にあり」が、天賞一つを獲得しました。雪が降る景というものは、まるで墨絵のように白と黒の構図になります。都会のビル街も同じですね。都会の初雪の情景を見事に切り取られ、選者の共感を獲得しました。次に多佳さんの句「我よりも背の高き子にお年玉」が、天賞一つを獲得しました。老いると言うことは、子の成長は益々早く感じるものだと思います。ここではお孫さんでしょうか、成長の喜びを、下五の「お年玉」で、表現されました。次に傘吉さんの句「振り向けばビルは影絵の初茜」が、天賞一つを獲得しました。短日の夕闇迫るビル街、西の空は茜色に染まり、ビルは真っ黒に影絵のように形取ります。ビルの黒色と夕空の茜色の対象、美しい影絵が出来上りました。

次に清助さんの句「振袖に襷凛々しく弓始め」が、天賞一つを獲得しました。弓が的を撃ちぬいたときの「パーン」という音の気持ちの好いこと。これが弓始めの振袖、襷掛けでは、趣もまた格別だろうと思われれます。お正月の印象深い句になりました。次に月草さんの句「冬空や木々悉く黙考す」が、天賞一つを獲得しました。今は枯れ枝オンパレードの木々ですが、春の準備の冬芽は備えています。下五の「黙考す」が、選者には「春を待つ姿」に見えたのだと思われれます。次に自然の句「新年やほころぶ笑顔あればよし」も、天賞一つを獲得しました。天賞推挙のコメントに「簡にして要、新年は何はともあれ笑顔が一番」といただきましたが、今年はこちらです。

次に蒼樹さんの句「万両や陽ざしを受けて輝けり」も天賞一つを獲得しました。青空の中の万両の赤の美しさ、周囲を明るくします。とき恰もお正月です。お目出度いこと、積極的な気分を導いてくれること、下五の「輝けり」がその言葉です。もう一句、歌多音さんの句「三密をしばし忘れて初詣」も、天賞一つを獲得しました。これまでの十句の中の新年の句を、まとめてひっくれば、この句の言う通りではないでしょうか。コロナ禍の防御を胸に仕舞い込んで、無理をせず、用心を怠らず暮らしていくことを、神様にお祈りをするお正月であったような気がします。さあ、皆さん。今年もよろしくご交誼を賜りますようお願い申し上げます。

今年最初のオンライン会議は、1月24日に開催されます。2月のスケジュールが決定し、今年の「道草」の概要が見えてくるかも知れません。でも俳句に負けることなく、挑んでいきたいと思えます。

(白然記)